学校教育目標『生き生きした　活力のある子』

学校だより

さいたま市立大牧小学校

平成30年度
11月号
No.419
平成30年11月1日
発行

１１　月　の　目　標

◎めあてをもって生活しよう

・自分のめあてを立てよう。

・めあてに向かって努力をしよう。

活力のある子を育む

校長　間宮　和宏

「秋の空　露をためたる　青さかな」　正岡子規

毎週のように台風の猛威に襲われる近年にない気候で始まった２学期も２か月が過ぎ、ようやく落ち着きを見せ、校庭のイチョウが少しずつ色付き始める冒頭の句にあるような秋の深まりを見せています。9月 29 日の運動会では、雨の中の応援本当にありがとうございました。おかげさまで、青組の８年ぶりの優勝など、子どもたちの真剣な態度とがんばりが随所にあらわれた思い出に残るものとなりました。

さて、6年生は、10 月に修学旅行とつぼみの日を経験します。どちらも次のステップに向けて大切な行事です。まず 15 日、16 日に日光方面に出かけた修学旅行ですが、それぞれがめあてに沿って世界遺産である社寺や重厚な自然を堪能した２日間でした。その中で、昨年のたかつえ自然の教室で培った「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を随所に発揮し、決まりやマナーを守って活動し、さすが大牧小の６年生という場面が数多くみられ、お褒めの言葉もたくさんいただきました。ふくべ細工も素敵な思い出になったことでしょう。

一方、25 日に行われたつぼみの日では、尾間木中、東浦和中の様子をそれぞれ見学しました。自分の進学先の中学校のよさを知り、中学校に進学する不安を和らげ、希望をもって学校生活を送ることできるようにする。そして、小・中学校間の相互理解を図り、一貫性のある教育活動や生徒指導を推進するという目的をもって、授業見学、体験授業、生徒会が中心となった交流会そして部活動見学を行いました。同じ中学校に進む尾間木小学校、向小学校、中尾小学校の児童も一緒に参加し、小学校から中学校に進学する際の不安が少し和らいだようでもありました。

卒業・進級まで後５か月、折り返し点を過ぎて次の学年へ向けて力を付けていく時です。校庭の木々も葉を落とし冬に備え、来る春に向けてエネルギーを蓄えているようです。秋は、学習、運動、様々な行事を通して心も大きく成長する時です。１年の折り返し点を過ぎた今こそ様々なことにチャレンジし、生き生きした活力のある健やかな子どもに育つよう力を注いでいきたいと思います。

ところで 11 月 2 日は本校の開校記念日となっています。37 年前の昭和 57 年に開校しました。30 周年の記念誌を見ますと、大牧小学校の発祥の地は清泰寺だったと記されています。そこには『平安初期の高層慈覚大師円仁によって開かれたと伝えられる清泰寺には、会津藩主保科正之の乳母であった見性院（武田信玄の娘）のお墓があります。見性院は「育む」ということのお手本を示した尼僧であり、ここに大牧学校が作られ（明治５年）、「育む」の精神を受け継ぎました。のちの大牧小学校は大牧学校にちなんで名前が付けられました。』と書かれています。また、開校当時の初代秋山清則校長先生の右のように新設校紹介をしています。

これらのことから開校当時の保護者、地域の方々の本校に対する思いが伝わってきます。その時の熱意や精神が現在の大牧小学校に脈々とつながっていることを思い、気持ちを新たにして子どもたちの教育に邁進してまいります。

活力ある子をめざして　　校長　秋山清則

四月一日。児童数七四二名一九学級、教職員三二名で浦和市三八番目の小学校として開校した新設校である。

校舎は四階建て二棟で、南北の校舎を結ぶ通路は広く、その屋上には時計塔がある。という公立小中学校ではめずらしい一見ホテルを思わせるような近代的な明るい校舎である。

保護者をはじめ地元の方々は、新設校に対する期待と努力は大きく、四月九日の第一回入学式に間に合うようシラサギとヨシをデザインした緞帳が教育環境整備促進会によって取りつけられた。

さらに、五月二十二日には、促進会の役員と尾間木地区の小中学校の教職員によって正門を中心に植樹された。

私たちは、次の教育方針をもとに全教職員の理解を図り、総力をあげて特色ある学校づくりに取り組んでいる。

教育目標

活力のある子の育成

○よく考える子
○思いやりのある子
○じょうぶな子

（略）

※市内のどこか一か所でも**「震度５弱」以上の地震が観測された場合には、「引き渡し」を実施**します。学校からの連絡を待たず、来校をお願いします。